

## 第 6 次豊橋市総合計画分野別計画 令和 4 年度取り組みまとめ

令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響も未だ大きい中、第 6 次豊橋市総合計画の 2 年度目として、これまで先人が築き上げてきた歴史、文化を礎に、新しい生活様式への対応を踏まえ、本市の持つ魅力をさらに高めながら、「未来を担う 人を育むまち・豊橋」を実現するための政策を推進した。

### <主な取り組み（分野別計画）>

#### 1 豊かな人間性を備え、未来を創る人が育つまち

子育てに安心や希望が持てる環境づくりを進めるとともに、豊かな人間性を備え、未来を切り拓くことのできる人材を育むための取り組みを実施した。

子育て支援・児童福祉の充実については、これまでの公立・法人園に通う対象世帯への保育料及び副食費の無償化に加え、市独自に所得制限なしの第 2 子保育料の無償化や 18 歳未満第 2 子への副食費の一部補助を拡充し、子育て世帯の経済的負担の軽減を図った。

学校教育の推進については、ICT 支援員を配置した「GIGA サポートセンター」を新設し、タブレットを活用した多様な学びの支援体制を強化したほか、物価高騰に直面する保護者の負担を軽減するため、令和 4 年 10 月から令和 5 年 3 月までの間、市立小中学校及びくすのき特別支援学校の給食費を無償とした。

その他、のびるん de スクールについて、令和 4 年度 2 学期より実施校を全小学校へと拡大し、新たな学びの場の拡充を図った。また、図書館開館 110 周年を記念して、豊橋市図書館 110 周年検定や特別展など、過去・現在・未来をつなぐ様々な事業を行い、図書と人、情報と人、人と人との交流のきっかけを提供した。

#### 2 活みなぎり、はつらつと働けるまち

東三河地域経済のけん引役を担う産業構造を形成するとともに、それぞれの夢がかなう働く場があり、柔軟な働き方ができるまちづくりを進める取り組みを実施した。

農漁業の振興については、経営が安定しない就農初期の設備投資について支援等を行い、意欲ある新規就農者の営農継続を図ったほか、市内の飲食店と農家をマッチングし、豊橋産農産物を使用した新メニュー開発及び提供イベントを実施し地産地消の推進を図った。

商工業の振興については、中小企業の経営基盤強化のため、設備投資や資金調達などの支援を行った。また、長期化する新型コロナウイルス感染症や物価高騰の影響を受ける中小企業に対して、業態転換や EC サイトの開設などを支援するとともに、非接触型のプレミアム付電子商品券の発行や商業イベントへの支援など様々な消費喚起策を実施した。

その他、本市の農業者や農業関係企業等と全国の有望な農業系スタートアップをマッチングし、本市を実証フィールドとした農業課題の解決につながる新製品・サービス開発を目指す取り組みを実施したほか、起業家と、そのチャレンジを応援する地域事業者等からなるコミュニティづくりを進め、連携を促進した。また、とよはし産業人材育成センターを開設し、労働安全衛生法に基づく各種講習を受講できるよう環境を整備した。

### 3

## 命の安全、心の安心が確保されたまち

大規模自然災害などへの備えを誰もが実践するとともに、パンデミックなどの非常事態にも負けない、強靱で回復力のあるまちづくりを進める取り組みを実施した。

危機管理の強化と防災対策の推進については、愛知県の公表する津波災害警戒区域図に基づき、避難所等の防災情報を記載した津波ハザードマップを作成したほか、高校生などを対象に防災意識の向上を図るためアオハル防災キャンプ（体験型防災訓練）を実施した。

消防・救急救命体制の充実については、救急救命士及び救急隊員を育成するとともに、本部日勤救急隊を発足し、体制の強化を図ったほか、豊橋市消防団組織等改善協議会を開催し、豊橋市消防団の今後の在り方について、協議・検討を実施した。

その他、地域防犯力の強化として、自治会へ防犯カメラの設置及び防犯灯の設置・維持に係る補助を行ったほか、高齢者がオレオレ詐欺等の特殊詐欺の被害にあわないように、特殊詐欺対策装置の設置に係る補助を新たに開始した。

また、動物愛護管理の推進のため、「豊橋市動物愛護センター（仮称）基本計画」に基づき、計画地や主要機能、施設・設備の内容、規模などを明らかにした「豊橋市動物愛護センター（仮称）整備基本計画」を策定した。

### 4

## みんなで支え合い、笑顔で健やかに暮らせるまち

健康・福祉サービス体制の整備を進めるとともに地域の絆を育むほか、地域医療体制を強化し、安心できる保健医療を提供するための取り組みを実施した。

健康づくりの推進については、がん検診と特定健康診査の受診率向上のための未受診者勧奨のほか、子宮頸がんについては4コマ漫画の作成や、市内大学での子宮頸がん検診を初めて実施した。感染症対策については、新型コロナウイルス感染症に対する不安を取り除くとともに医療崩壊を防ぐため、自宅療養者等に対する医療体制や支援体制を整えたほか、新型コロナウイルスワクチンは、かかりつけ医による個別接種や集団接種を行い、感染症のまん延防止を図った。

医療の充実については、豊橋市民病院において、令和6年2月の完成に向けて感染症専用病棟の建設に着工し、入院患者の療養環境向上のため、無線LANを全病室へ拡充した。

高齢者福祉・介護保険の充実については、在宅医療提供体制の整備を図るため、在宅医療に関する相談窓口である在宅医療サポートセンターの運営を行ったほか、在宅医療及び生前整理等の講座の開催並びにエンディングノートの配布・作成支援を行い、終活に関する市民への周知を行った。

その他、生活自立の支援について、生活保護者が経済的に自立した生活を送ることができるよう、就労支援員や庁内ハローワーク窓口と連携し、本人の希望や適正にあわせた就労支援を行った。

## 5 互いを尊重し合い、心豊かに暮らせるまち

歴史や芸術文化、スポーツなどにふれあうことができる環境を整えるとともに、多様な価値観を認め合うことのできるまちづくりを進める取り組みを実施した。

芸術文化の振興については、市民文化会館の改修に向けて設計業務に着手したほか、三の丸会館では施設保全のための改良保全工事を実施した。スポーツの推進については、スポーツの機会を創出するため、地域のスポーツ団体や民間事業者と連携したスポーツ体験イベント「とよはしスポーツ博」を新たに開催したほか、多目的屋内施設整備に向け、市場調査を行い基本計画の策定に着手した。

美術の振興と歴史文化の継承については、美術博物館の施設機能や来館者の利便性を高めるため実施設計に基づく改修工事を行ったほか、文化財に対する市民の関心を高めるため、継続的な調査と保存・活用を進めて文化財の価値を明らかにするとともに「市指定史跡吉田城址保存活用計画」を策定し、本市を代表する文化財である吉田城址の保存と活用の方向性を示した。

国際化・多文化共生の推進については、外国人市民も安心して行政サービスを受けられるよう、外国人市民相談を実施するとともに、31言語に対応できる多言語通訳タブレットを新たに導入した。また、外国人市民向けウェブサイト「ぼけとよ」やSNSを活用し、やさしい日本語を含めた多言語で役立つ情報を発信した。

その他、性別による困難を抱える人への支援として、パートナーシップ制度の宣誓者の転出入時における負担軽減を図るため、東三河5市において、パートナーシップ宣誓制度に係る自治体間連携に関する協定を締結したほか、困難や不安を抱える女性を支援するため、電話相談、面接相談、SNS相談などを実施した。

## 6 魅力にあふれ、いきいきとにぎわいあるまち

新たな魅力の創出や既存資源の磨き上げ、にぎわいのある中心市街地の形成など、多くの人から選ばれるまちづくりを進める取り組みを実施した。

まちなかの活性化については、再開発事業を行う駅前大通二丁目地区、豊橋駅西口駅前地区及び豊橋花園商店街地区の事業者に対し助成等を行い、事業促進を図ったほか、産学官金民で構成された「豊橋まちなか未来会議」に参画し、「まちなか未来ビジョン（中間版）」の作成やHPのリニューアル等を行った。

のんほいパークの魅力向上については、夏の恒例イベント「ナイト ZOO」などの季節イベント、「ポケモン化石博物館」の開催により、市内外からの誘客と園内の賑わいの創出を図った。

観光の振興については、道の駅「とよはし」を起点とし、田原・新城・浜名湖を広域周遊するサイクルイベントを実施したほか、「ポケモン化石博物館」開催期間中に、ポケふた（ポケモンマンホール）を設置し、スタンプラリーを実施した。また、豊橋駅観光案内所での市内をはじめとした東三河等の観光情報の提供や、ホームページ、インスタグラムを活用した観光資源の情報発信を行った。

その他、豊橋のまちの魅力首都圏の子育て世代に知ってもらうため、様々な人の暮らしにフィットすることをテーマとしたPR動画及び特設サイトを制作・配信したほか、ふるさと回帰支援センター主催のイベントに出展し、他市町村や来場者の情報収集に取り組んだ。また、NHK朝の連続テレビ小説「エール」の誘致活動を機に相互交流が行われてきた福島市と、豊橋市の手筒花火、福島わらじ祭りなど両市の伝統行事を活用した交流事業を実施したほか、今後さらに交流を深めるため「パートナーシティ協定」を締結した。

## 7

### 自然と共生し、地球環境を大切にすまち

豊かな自然を生かした、暮らしに潤いと安らぎのあるまちづくりを進めるとともに、SDGs 未来都市として、経済、社会、環境の調和を図る取り組みを実施した。

気候変動対策の推進については、家庭からの温室効果ガスの排出量を削減するため、住宅への創エネ、蓄エネ及び省エネ設備の導入に対し設置費用の一部を助成し、再生可能エネルギーの普及促進及びエネルギーの地産地消の推進を図った。また、公共施設における民設・民営の太陽光パネル設置（PPA 事業）を実施し、市民館等避難所への電力供給を開始したほか、新たに公共施設の駐車場等を活用した大規模施設での事業の公募を実施した。

資源循環の推進については、吉本興業グループと連携し、環境に配慮した取り組みを行う市内企業や学生等を取り上げた番組を BS よしもとで放送し、本市のごみ減量や資源循環の取り組みについて情報発信を行い、わかりやすく楽しい学びの機会を提供した。また、ごみ処理の広域化に向けて、豊橋田原ごみ処理施設整備・運営事業の契約を締結し、建設工事に着手した。

その他、地域に愛される公園を目指し、緑の拠点を維持するため、公園樹などの維持管理に加え、特に約 5000 本ある公園の危険木を緊急性の高いものから剪定及び伐採した。また、伐採木を有価物として活用するため、市民に売却した。

## 8

### 暮らしの基盤が整った、便利で快適なまち

公共交通などの生活基盤を充実させるとともに、まとまりがあるまちづくりなどを進め、暮らしやすい便利で快適なまちを形成するための取り組みを実施した。

都市空間の形成について、市街化調整区域の既存集落の地域コミュニティ維持にむけた現状調査及び分析を行った。交通環境の充実については、交通結節点への新たな移動手段を検討するため、県境をまたぐ移動手段として企業シャトルバスを活用した社会実験を実施したほか、自転車利用環境の向上や利用啓発を図るため、サイクリングルート情報等がスマートフォンで分かるデジタルサイクリングマップを作成するとともに、サイクリングイベントを実施した。

水道水の安定供給については、経営の効率化を図るため、令和 3 年度から AI・IoT などの新技術について検証を開始するとともに、令和 4 年度から静岡県湖西市と水道料金収納業務等包括業務委託の共同化を行い、委託費用の縮減につなげた。

その他、市営住宅の計画的な整備や改修、管理戸数の適正化のため、西口住宅 F、G、H 棟を廃止し、西口住宅 2 号棟を供用開始した。